

若大将クルーズ 2022



2022年7月

旅のチカラ研究所 植木圭二

豪華客船「飛鳥II」の若大将クルーズに妻と乗船してきた。この船の名誉船長である加山雄三が、毎年この時季に乗船しコンサートを行うもので、今回は彼の引退表明から間もないこともあって非常に人気が高く、様々なイベントがあった。



■若大将クルーズを予約

今回の若大将クルーズに乗船したのは、私が若い頃から加山雄三に憧れていたということが主な理由だが、それを後押しした出来事もある。

加山雄三は1937年生まれで今年85才、私より20才近く年上になるが、私は彼の映画「若大将シリーズ」の後半頃からほぼリアルタイムで映画を見ていた。そして小中学生の頃にスポーツ万能、音楽もできる人気者で女の子にモテモテの主人公“田沼雄一”に憧れた。それはいつの頃からか田沼雄一ではなく加山雄三そのものになっていった。そのためその後の私の人生に少なからず影響を与えている。高校時代にフォークグループを結成し作詞作曲をし、大学生になってからはディンギーと呼ばれる小さなヨットまで購入した。

実は私は加山雄三のコンサートには一度も行ったことがなかった。いつかは行きたいと思っ
ていたが、なかなかその機会がなかった。いや本気で行く気があったならば行っていただろう。
幼い頃の憧れに何も今さらと思っていたのかもしれない。私の音楽の志向もフォークソング中心
になっていったことにも関係しているかもしれない。

そんな私が若大将クルーズの予約をしたのは、簡単に言うと 3 万円のためである。

今年の 3 月乗船予定だった飛鳥Ⅱクルーズが直前で中止になった。新型コロナウイルス感染症
(以下コロナ)ではなく、船の故障が原因だが、私は少し困ってしまった。

私が初めて飛鳥Ⅱに乗ったのは今から 2 年半前で、その時に 2 度目の乗船で使える 3 万円の割
引券をもらっていた。その有効期限が近づいていたので、そのクルーズに使用する予定だったが、
使えなくなった。船会社からは中止のお詫びは次回乗船時に使えるオンボードクレジット 1 万円
だけで、割引券の使用期限は延長しないと念が押されていた。

3 万円を使わないともったいないという貧乏性の私の目に留まったのが若大将クルーズだった。
加山雄三という名前でも多少割高になるが、3 万円の割引とオンボードクレジット 1 万円が使える。
それよりも加山雄三を“生”で見る機会はそうはないだろう。これは行くしかないという結論に
至った。ちなみに同行する妻は加山雄三をあまりよく知らない。

クルーズを申し込んでしばらくして加山雄三の引退表明がニュースで流れる。今年いっぱい
コンサートやテレビなどの歌手活動は終了させるというもので、もうカウントダウンが始まって
いる。私は実にいい時に申し込んだと内心喜び、今では 3 月のクルーズ中止に感謝しているほど
だ。そして妻も最後の加山雄三のコンサートだと認識して、期待しているように見える。

私も加山雄三をそんなに良く知っている訳でもない。俳優で歌手、今でいうシンガーソングラ
イターの走り、海の男の象徴だった彼のクルーザー「光進丸」が数年前に全焼して沈没した。

鉄道マニア、料理と絵画はプロ並み、英語堪能で米国永住権を持っている。

父親は上原謙という 2 枚目俳優だったことは、ある年代以上の人なら知っている。上原謙と高
峰三枝子が国鉄の CM で法師温泉の混浴風呂で撮ったポスターは有名だ。高祖父(祖父母の祖父)
が岩倉具視だということはあまり知られていない。実に凄い家系に育っている。

■乗船、そしてコロナ対策

いよいよ横浜大棧橋から乗船する。
その直前に乗客全員に対して PCR 検
査が行われる。ここでもしも陽性にな
った場合はクルーズ費用が全額払い戻
されるとはいうものの、ここまで来て
帰るのはあまりに悲しい。

今回の乗客は 600 人位で、飛鳥Ⅱの
乗客定員は 872 人なのでコロナ対策で
乗客を減らしている。



【飛鳥Ⅱ 横浜大棧橋にて】

乗船後も感染対策には非常に気を使っている。私たちはクルーズ船に乗ったら直ぐにカジュアルなレストランに軽食を食べに行くのが常で、今回も行って私が座るとスタッフがテーブル番号と私の乗客 ID を機械で読み取っている。誰が何時、何処に座ったかを全て記録している。

私の旅友にも加山雄三の大ファンがいて、女性 1 人で乗船してきた。夕食は 1 人では寂しいだろうと 3 人で食事をしようとしたら、彼女と私たち夫婦の間には大きなパーテーションが置かれた。連れ合いなのでパーテーションをどかしてくれと頼んだが、スタッフは「同室の乗客以外は必ずパーテーションで仕切らないといけない」と拒絶された。実に徹底している。クルーズ業界では 2 年前のあのダイヤモンド・プリンセスのコロナ騒動以来、徹底した対策が取られている。ここでまた感染者を出したら、また出航できなくなる。まさしく死活問題だ。



【飛鳥Ⅱ内部 エントランス前の大型モニター】

■若大将一色

久しぶりの飛鳥Ⅱに夕食やエンタテインメントでクルーズを楽しみながらも、何となくあわただしく 1 日目が終わる。そして一夜明けての 2 日目はゆっくり時が流れているようで、気が付けば船内は若大将一色になっている。

加山雄三が描いた絵画の販売を行っている。彼は絵画の才能もあり実に見事な絵を描いている。

テーマの多くは“海”で、風景画がほとんどだ。そして彼自身が書いた光進丸の設計図なども展示されている。毎年毎年いろいろ描いており、つまり設計思想を少しずつ変えているのが分かる。船を設計するという工業的な行為ではなく、夢をキャンパスに描くという行為に感じられる。そう考えると海の風景が多いことも理解できる。

驚くことは販売価格で、大きいもので100万円以上する。実物の絵ではなく複製画がその値段なのに驚いてしまう。複製画なので売り切れはない。売れ筋は20万円位の価格のものに人気が集まり、多いものでは20枚くらいの注文がある。

加山雄三オークションというのも開催される。妻は面白そうだからとオークション会場に見に行くが、私は部屋のテレビでオークションの中継を見る。

彼が使用していた筆が5万円で売れて、司会者も単なる筆なのにと驚いている。光進丸の浮き輪も10万円以上で売れた。これは飛鳥Ⅱのデッキにある木製の浮き輪と同じで、飛鳥Ⅱでなく、光進丸と書かれているだけでこの値段になった。その他にも加山雄三が使ったウクレレが30万円、ギターが80万円で売れた。



【浮き輪 ASUKAⅡの刻印】

■光進丸の軌跡を追う

船内放送では飛鳥Ⅱの名誉船長の加山雄三が挨拶し、航海状況などを説明してくれる。多少活舌が悪いようで、少し聞き取り難い。

それはそうだろう、3年前に脳梗塞で倒れて一時は生命の危機にあったが、一命を取り止めた。しかし2年前には小脳出血で倒れて緊急搬送された、そしてその時もまた一命を取り止め、リハビリに励んで再度の復活した。そして昨年もこの飛鳥Ⅱで若大将クルーズ、コンサートを行ったのだから、まさしく永遠の若大将だ。

しばらくしてまた船内放送が流れる。今度は航海士からで「現在は江の島の沖合約7kmに本船はいますが、これから加山雄三さんの歌“光進丸”の歌詞に沿って江の島から三崎沖、伊豆大島、新島、式根島、三宅島まで航海いたします」と言っている。

光進丸は私が好きな歌で、カラオケでもよく歌っているから歌詞は覚えている。なんと粋な計らいなのかと、感動してしまう。人間は予期せぬことに思わず感動してしまうものだ。

その光進丸の1番の歌詞は以下のようになっている。

栈橋に立つ君の肩から、海鳥たちが飛び立ってゆく
ラットを握る俺を見つめて、涙で何か話しかける
出航前のあわただしさにそこだけ時間が止まったようだ
心ひとつの海の仲間がモヤイといて船に乗る
江の島、三崎、大島越えて新島、式根、三宅島まで
Sail On 光進丸よ 俺を銀色の海へ誘（いざな）え、
Sail On 光進丸よ 俺の夢乗せて海へ羽ばたけ

歌詞の中にヨット用語がさりげなく使われているのが気に入っているひとつの理由だ。モヤイはモヤイ結び、英語ではボーラインノットとばれる結び方、ラットは舵を取るハンドルのことだ。

飛鳥Ⅱは歌詞のとおりに島を巡る。どの島でも接近すると航海士が島の説明をしてくれる。

「新島は人口約 2500 人、サーフィンの島として有名です。白い崖は名所“白ママ断層”です」と紹介してくれる。私は昨年の伊豆諸島の旅でこれらの島に上陸している。

式根島に近づくと、また説明が始まる。「式根島は江戸時代、1703 年の大地震によって新島から分離しました」と説明している。新島分離説は私も一時は信じたが、真実ではないらしく意図的に流された噂話らしい。詳細は旅行記「伊豆諸島の旅 2021」を読んで欲しい。

しかし、そんなことにどうでもいいかもしれない。何しろ若大将クルーズだ。夢とロマンがあった方がいい。航海士は全てを知って、話しているのだろう。

■大浴場

現在、船は伊豆諸島を見物のために海遊しているので、私は入浴しながら島を見るために大浴場に行く。飛鳥Ⅱは 2 年前に改装して大浴場に露天風呂が出来たと聞いていたからだ。

露天風呂は大浴場からドアを 1 枚開けるだけで裸のまま出られて、10 人くらいは同時に入ることができる。私が行くと先客が 1 名いる。

彼の方から話しかけてきて「いやー、船で露天風呂に入れるとは思ってもみなかったですよ。本当に最高ですね！」と、しみじみと言っている。彼もまた加山勇三大好きおじさんらしく、鼻歌は加山雄三メドレーだ。

私は鼻歌には加わらなかったが、「露天風呂は最高！」には大いに賛同する。

私の知る限りでは大浴場がある客船は定期航路のフェリーを除くと、飛鳥Ⅱ、日本丸、ぱしふいっくびいなす、そして外国船籍だが日本で造られたダイヤモンド・プリンセスの 4 隻だけだ。しかしその中で露天風呂は飛鳥Ⅱにしかない。

露天風呂から大海原、そして島を見る。しかも景色がどんどん変化していく。海辺の海岸にある露天風呂では景色が変わることがない。こんな開放的なでダイナミックな露天風呂は他にはないだろう。



【展望露天風呂の夕景 船会社の公式 HP より】

露天風呂だけではなく、この船にはドライサウナとミストサウナがある。何よりも水風呂が併設されているのが嬉しい。ドライサウナがある船は珍しくもないが、そこに水風呂があるのは実に珍しい。私はサウナと水風呂を満喫して、次のイベントに向かう。

■加山雄三スペシャルコンサート

そのイベントこそ、加山雄三スペシャルコンサート、このクルーズのメインイベントだ。

私と妻は開演 45 分前に会場に行ったが、既に 100 人は並んで待っている。私たちの後ろに並んだ老夫婦と話をする。やはりこのコンサート見たさに乗船したという。奥さんが熱狂的なファンらしく、9 月の東京国際フォーラムのラストショーにも予約を入れていると言っている。しかし彼らはこのクルーズが最終クルーズと思い込んでいたようで、実際には年末に 2 回の最終若大将クルーズがあることを教えると、また乗りたいと言っているから信じられない。



【船内コンサートなのにチケットがある】

開場して席に座り、そしていよいよ始まる。バックバンドが現れて配置に着き、加山雄三がゆっくり出てきて、そして直ぐに歌い始める。

船内放送の活舌は良くなかったが、歌は見事に復活しており、音程はもちろん声量も高音も出ている。2 曲終わったところで椅子に座っていいかと観客に理解を求める。彼は 85 才、2 回の大病を患っているから、観客からは大きな拍手が沸き起こって全員が「どうぞ座ってください」の意思を表している。

その後も 10 曲くらい歌ったが、往年の名曲は比較的少なく、彼自身が好きな歌を中心に選んだような気がする。

トークもなかなか面白い。その内容までここで書いてしまうとネタばらしになるのでやめておくが、世界的スターに会った時のエピソードが面白かった。そのスターとはエルビス・プレスリーやペリー・コモで、プレスリーは 1935 年生まれで加山勇三より 2 年先輩だから、生きていれば 87 才、まだ歌を歌っていたのかもしれない。

バックバンドはハイパーランチャーズで、ザ・ワイルドワンズのメンバーの植田芳暁がドラムス、島英二がギターとウクレレを担当している。

■飛鳥Ⅲ

今回の飛鳥Ⅱ乗船は私にとって2回目、食事や部屋、加山雄三以外のエンタテインメントは予想通りだ。その意味では期待も落胆もない。(初乗船は旅行記「飛鳥Ⅱの船旅2019」参照)

これが“慣れ”というもので旅にはつきものだと思っている。慣れを回避し常に新鮮な感動を得るためには、様々な工夫がなされる。

その慣れの回避策の一手かもしれないが、今回のクルーズで興味深い情報を得た。

それは飛鳥Ⅲの建造情報である。船名は飛鳥Ⅲとは言っていないが、私も業界人も皆そう思っている。

2021年3月にドイツの造船会社と契約をし、現在は詳細設計中で、2023年に建造が開始され、2025年1月に引き渡しを受け、2025年春にデビューする。

総トン数は51950トン、現行の飛鳥Ⅱの50444トンとそう変わらない。全ての客室にバルコニーを配し、それゆえ客室スペースは広がるが、乗客定員は飛鳥Ⅱのより少なく740人くらいになる。それでも乗組員数はほぼ同じというから、より一層サービスが向上する。ついでに今回入浴し感動した展望露天風呂も設置するという。

建造費用は、地方銀行などを中心に多数の日本企業が参画する船舶投資ファンドで調達する。その背景には日本各地を飛鳥Ⅲで巡ることで地方創生を念頭においているようだ。

飛鳥Ⅲについては、いろいろな憶測情報が飛んでいた。例えば日本船籍にならないという噂もあった。日本船籍は外国船籍に比べると安全や人員などでコストがかかる。そのためクルーズ費用の面ではとても外国船籍の船に対抗できない。しかし外国船籍の船はカボタージュ条約によって日本国内から日本国内だけへの航行は出来ず、必ず外国に寄港しないとイケない。日本船籍の船はその必要がないのではコロナ禍でも国内旅行扱いで船旅ができる。

コロナの教訓や地方創生を考えると外国船籍はあり得ないだろう。

船のサイズを大きくしないのは、日本の港の事情を考えると当然で、何よりも横浜ベイブリッジの下が通れなくなる。

飛鳥Ⅲは、日本の富裕層にターゲットを絞って、きめ細かいサービスの“おもてなし”で外国船に対抗するつもりだ。日本のクルーズ船の生き残りをかけた一つの選択だろう。

しかしこの情報を知って、私にとってはもっと残念なことがある。

それは外国の造船所に発注したことだ。日本企業の技術者だった私にとって、日本の造船所に発注しなかったことは残念でたまらない。現在の飛鳥Ⅱは三菱重工長崎造船所で造られ、1990年に就航した。しかし同所で大型客船を建造するのは実に50年ぶりだった。50年前とは第二次世界大戦前だから、戦後発の挑戦だった。資料もノウハウもなく、それでも総力をあげて完成させた。確かにバブル期の日本なのでイケイケドンドンの風潮だったが、果敢に挑戦するという志が高かったから出来たのだろう。ダイヤモンド・プリンセスも2004年に同じ造船所で造られた。しかしこれを最後に日本では客船を造っていない。

造船大国と言われた日本はどこに行ってしまったのか。

それは造船だけにとどまらず、“技術立国 日本”の終焉を意味しているのだろうか。

■旅の記録

旅行は2022年7月20日（水）～7月22日（金）の2泊3日で実施、行程を以下に記す。

- ・1日目 14時に横浜大榎橋に集合、PCR検査実施後に16時乗船、17時出航、以降は船内生活
- ・2日目 終日クルーズ、加山雄三スペシャルコンサートなど
- ・3日目 9時に横浜大榎橋接岸、10時に下船、11時に帰宅

費用は1人当たり約12万円、内訳を以下に示す。

- ・阪急交通社へ払い込み 121500円/人
(正確にはKステート料金は151500円/人、そこから30000円値引きが適用された)
- ・船内の酒、土産物など 1480円/2人
(郵船クルーズより前回クルーズ中止による特典10000円と阪急交通社の予約特典4000円の2人分を充当した)
- ・大榎橋まで往復交通費 約500円/人